

## 人的資本の可視化指針を踏まえたISO30414セミナー～開催報告

2022年8月に内閣官房から公表された「人的資本可視化指針」によって、企業が経営で“ヒト”をどう確保し、活用しているかの開示に注目が集まっています。どの企業においても人材こそ最大の資産であると考えられ、人的資本における政府側からの企業への対応圧力が明確になりつつある状況を踏まえ、宝印刷では11月9日、「人的資本の可視化指針を踏まえたISO30414セミナー」を開催しました。11月7日には金融庁より、「企業内容等の開示に関する内閣府令」等の改正案が公表され、有価証券報告書において人材の多様性の確保を含む人材育成の方針や社内環境整備等に関する指標の内容等について、必須記載事項として新設されるサステナビリティ情報の「記載欄」の「戦略」と「指標及び目標」において記載を求めるとされ、企業側の積極的な検討及び開示を求めています。

今回の宝印刷株式会社と株式会社コトラによる共同セミナーでは、宝印刷グループのシンクタンクである宝印刷D&IR研究所からはESG/統合報告研究室の小谷正彰首席研究員と花家可菜子研究員が、株式会社コトラからはディレクターの杉江幸一郎氏が登壇し、

1部. 人的資本に関わる国内外の動向とその背景  
2部. 統合報告書における人的資本開示の状況  
3部. 人的資本の可視化指針を踏まえたISO30414対応  
というプログラムで2時間にわたり、ライブ形式で配信しました。

1部では、小谷研究員より投資家が注目する人的資本開示の方向性は連続的事業における既存の人的資本投資よりもむしろ非連続的事業における産業構造変化への対応可能な人的資本投資であるといった背景や米国・EUでの制度開示における人的資本の開示要請について示したほか、国内外での先進企業の事例を解説しました。

2部では、花家研究員より2022年9月末までに発行された統合報告書（日経225銘柄のみ）における人的資本開示の状況について調査結果を報告しました。ほぼ全ての企業は人財を価値創造の源泉と捉えている一方で、自社の現状に関する適切な把握・分析についての訴求は二極化している印象であることを報告し、まずは自社のビジネスモデルやマテリアリティと照らし合わせながら、人的資本に関する自社の課題を洗い出すステップが重要であることを説明しました。

3部では、杉江氏より「人的資本/人的資本経営とか何か」「ISO30414の活用方法を知る」「世の中のトレンド（事例）から学ぶ」といったアジェンダに基づき解説をいただきました。特にISO30414については、概要や測定項目一覧、他のフレームワークとの比較といった説明に加え、利用するメリットや実際の活用事例について、他社事例を踏まえて解説いただきました。また、視聴者から寄せられた「人的資本開示を始める場合、一番重要なこと・着手すべきことは何か」といった質問に対してリアルタイムで回答しました。

終了後に集計したアンケートでは「人的資本の情報開示について、現状よりも深く、そして有報への展開も含めてどのように対応するか検討していたので、非常に参考になりました。」「引き続き他社事例、好事例などの情報提供をいただくと助かります」といった声をいただきました。

ご多忙のなかご参加いただいた皆様にはこの場を借りて御礼申し上げます。宝印刷D&IR研究所では、今後もこうした制度開示・任意開示の垣根を越えて有益な情報を得られるセミナーを様々な手段を通じて開催してまいります。